

史料群名	のほらしげはち 野原茂八家文書	旧所蔵者	野原茂八
探訪時住所	和歌山県有田郡広町広		
現在の住所	和歌山県有田郡広川町		
探訪年月	昭和25（1950）年10月		
史料の年代	享保17（1732）年	史料の 総点数	4点
年代の内訳	近世 4点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「1951年6月 漁業制度資料目録 第3集 全国篇Ⅱ 日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会」		

収蔵にいたる経緯

「漁業制度資料目録 第3集」に野原茂八家文書（有田郡広町広）の史料4点が掲載されている。しかし、現在同家の名で中央水産研究所に保管されている史料は、点数の4点のみ一致し、標題等は全く一致しない。中央水産研究所の史料を検討してみると、4点のうち3点で、宛名として「広村 源助」の名があつて、4点とも享保17（1732）年前後の田畑の譲りあるいは売渡に関する証書類である。野原の名は見えないものの、地名から考え同家の史料の可能性は十分ある。一方、「漁業制度資料目録 第3集」掲載の史料4点は、いずれも広村とは無関係な蝦夷の地図など北海道に関連するものである。あるいは「漁業制度資料目録 第3集」が、他家の史料を誤って掲載したとも考えられるが、詳細は不明である。

史料群の概要

有田郡広（ひろ）村は、近世から明治25年まで存続、その後広町となり、昭和30年に広川町の一部になった。

近世の広村は和歌山藩領で、湯浅組に所属、広村のすぐ北に湯浅村があつた。紀伊水道に面し、湯浅湾の最奥に位置した。古くから湯浅方面の漁民は遠海に出漁することが多く、五島列島や千葉の房総半島にまでその活動はおよんだ。

本史料群は、漁業に関するものはなく、いずれも田畑の譲りあるいは売渡に関する覚えである。ほぼ享保17年前後のものと考えられる。

